

「原発ゼロ」は国益に背く?? 葛西会長がまたぞろ原発発言!

9月9日『読売新聞・地球を読む』にまたぞろ登場した葛西会長。今度は、「国益に背く『原発ゼロ』」と題し、反(脱)原発の人たちに同調する経営者、政治家などを「大衆迎合主義」として批難し、原発がなければ日本は亡国になると煽っています。そして、事故を覚悟してまでも原発を動かせと言っています。

今夏、政府・電力会社は、特に関西電力管内で電力不足が起きると喧伝し、火力発電所8基を停止させてまでも、大飯原発を無理矢理再稼働させました。しかし、結果的に大飯原発を再稼働させなくとも電力は充分足りたことが報道されました。2030年の原発依存に対するパブリックコメントでは、約8割が「原発ゼロ」と回答しています。大多数の国民が、原発は必要ないと考えていることに、葛西会長は危機感を抱いたに違いありません。

葛西会長の主張は、あまりにも独善的で事実と反します。まず、「原発が低コストで安定的だ」「2011年には3兆円の国富を流失させ電力コストが25%上昇した」と言います。使用済み核燃料の処理費用までを計上すれば、天文学的な数字になることは目に見えています。福島第一原発事故は国富を流失させてはいないのでしょうか?そこには一切目を向けません。

更なる暴論は、原発と交通機関を同一視していることです。自動車、鉄道や飛行機で死亡事故が起きてても利便性を求めて無くさないのは、リスクと覚悟を決めているからで、だから原発も覚悟して動かせ、というものです。まさに人間を虫ケラ同然に扱う発言です。

最後は、民主党、自民党の代表選では原発推進を争点にせよと、締めくくっています。原発推進の政治家に檄を飛ばしたいのでしょうか。一企業の代表者が政治まで介入する太々しさには、もううんざりです。

原発事故が「国益」をぶち壊した事実を知れ!

